岐阜県ただ一人の鵜籠づくり名人

名人　石原　文雄（69）　岐阜県関市
聞き手　中島　卓哉　岐阜県立加茂農林高等学校2年

平成16年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、23名の「森の名手・名人」がいます。
この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から、誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

▼石原文雄さん

1. 鵜籠の種類

鵜籠の種類には鵜を入れて運ぶ「四羽入り」、それから二羽入れる「二羽入り」、それから家で寝かせる時に使う「鳥屋籠」、鵜がとってきた鮎を入れる「吐き籠」の4種類。四羽入りの特徴は籠の下が膨らんでいる。それは、鵜を入れた時に、尾をすらんようにするためと形も見た目がいい形になるようにするため。四羽入りは真中に仕切りを入れて両方に二羽ずつ入れて使う。二羽入りの特徴は四羽入りよりも小さく、形としてはあまりいい形ではない。鳥屋籠は鵜を寝かせる時に使うもので二羽ずつ入れて使う。吐き籠の特徴は小さい籠と大きい籠二つで一組になっていて、大きい籠に小さい籠がスポッと入れれるようになっている。それで船に持ち込むときは重ねて持っていて、魚を入れる時に分けて使うね。私は鵜籠の形は良いと思うねぇ。長良川の鵜飼には情緒があるしねぇ。この鵜籠っていうのは、日本全国鵜飼をしている場所が十何ヶ所あるらしいんやけど長良の鵜飼で使っている籠は鵜籠です。本当に鵜籠っていうのは良い形だから私は鵜籠を長く伝統として残したいと思います。

2. 昔は忙しかった

昔はね農業用のいろいろな生活のおかって道具とか養蚕っていうお蚕とりよった道具なんかほとんど竹製品やったもんでけっこう忙しかったよ。竹細工を作っている人でも関で20人くらいおったでね。葬式に使ったりする籠、農産物を入れる籠、花生けの籠とかいろいろつくった。竹籠はお蚕の餌にする桑を入れるために使われていた。そりゃあ昔は養蚕道具がほとんどやったよ。この辺ではお蚕はねほとんど農家の収入源やったよ。今から10年くらい前まではまんだ岐阜県でも3万軒ぐらいやっとったところが、今は50軒から60軒ぐらいしかなくなってしまったんよ。まぁ今はプラスチック製品とか輸入によって外国から安い商品が入ってくるし、生活の必需品やなくなったもんでだめやね。

3. こだわり

竹を割っただけでも製品ができるんやけど、私たちはこだわってさらに小刀できれいに削る。それは木にカンナをかけると一緒で、そうすることで汚れない、水の中に入れても水が染みない、汚れても洗えばすぐ落ちる、かびない、虫も食いにくいなどの利点がある。だからこれだけ手間ひまかけて良い物を私はこれからも作ろうと思う。スーパーとかホームセンター行くと竹製品の輸入品がもう100円均一とかそういう安いところでいっぱい売っとるけども、それはきれいに削る仕上げはやってなくてただ竹を割っただけ、そして安い賃金でできておるもんで我々ではとてもたちうちできんところがある。

4. 竹細工の道具

私が使う刃物はノコギリと鉈あと両刃と片刃と言う刃物の種類がある。両刃って言うのは上から見て両側から刃が磨いである刃物で、片方だけ磨いで刃をつけたものを片刃という。それで、刃物は地金と刃金でできている。刃金は金の性質がものすごく硬い。だから折れやすいし、研石にのんもんで研ぎにくい。だから地金で刃金をはさむ。そうすると折れんし、研ぎやすいし、よく切れる。それで竹を割るときは絶対に両刃でなければ良いふうに割れない。片刃でね、竹を割るのはまず無理。ケガしてしまうから。それから削る時は片刃で削る。両刃でも削れんことはないけど切れあじが悪いもんで片刃を使っています。だから昔は、刃金を真中に入れて地金ではさんでカンカンカン叩いて作ってました。今はね、工場では非常にすごいやり方で、刃金に両方地金をはさんでプレスではさむ、その時に大きな材料を使っていべんに作っている。

自宅の工房で製作に励む石原さん

5. 私が使う竹

私は地元の関市内の山の中の竹をつかっとる。その中のほとんどが破竹っていう種類の竹。そういう作るものによって破竹、真竹、孟宗竹とあるけど私は破竹と真竹をほとんど使っとる。竹は4年、5年、6年、7年、育ってから切るのが一番いい。それは硬さがちょうどいいから。8年以上になるとあんまりよくないし、3年やとちょと早い。11月から12月、遅くても1月の半ばまでに切ります。でも12月に切るのが最高やね。

手前2つは「吐き籠」、奥左「四羽入り」、奥右「二羽入り」

6. 竹はすばらしい

世界には1，300種類も竹があるそうやけど、私は日本の竹の400種類の竹っていうのはすごいと思う。今から100年も前にエジソンが電球のフィラメントを発明したときは、0.3㎜ぐらいに割った竹を炭素化して電球のフィラメントに使ったんやけど、その竹は日本の竹やったって言う話がある。映画俳優のチャーリー・チャップリンが愛用しとるステッキは日本の「カンチク」っていう竹を使っとる。竹っていうのはすばらしい。殺菌、防食、防腐、竹製品で作った物に生ものを入れると腐りにくい。それは、通気性があるから。それと竹の樹皮にはクロロフィルというものが含まれている。それと、生ものや魚などの下に竹の笹を敷いておくと見た目も綺麗やがそれだけじゃなく、これは新鮮だという証明に使う。竹の笹が緑で鮮やかだったらそれは新鮮。もしも、腐っておるとその緑がすぐ変色する。だから昔から、生活の知恵で使っていた。

それと竹にはすごいいろいろないいものがある。何十キロもある大きなパンダでも笹を食べているだけで体力が維持できる。もしも山で遭難したら熊笹の芽を噛んでおれば十日間ぐらいは生き延びられる。それと竹はすごい成長力がある。伸びる時なんかは一昼夜に1m20㎝くらい伸びる竹も種類によってはある。竹には年輪がなく、いったん伸びたら長くもならんし太くもならん。だから太い竹だからといって何年か経ったかっていうとそういうもんじゃない。だから、竹の年を何処で見るかと言うと竹の葉っぱの根元のところが、一年に一枚ずつコロンコロンと欠けてくるもんで元を見るとこれが何年経ったかわかる。

竹の性質を考えて選び、編んでいく吐き籠づくり

7. 極めつけがない

竹っていうのは人間と同じでね、100本あったら100本全部性質が違うようなもんで、その時の適材適所にあわせて使う。硬い竹、柔らかい竹、いろいろありますでねぇ。でも、その性質の見分け方を口でいったり、文章で書いたりすることはまずできん。自分の手で触ったり目で見たら分かる。こういうふうに竹と話できるとゆうふうなところまでなると楽しい。親父は90歳まで生きましたけど、死ぬ前でも竹には極めつけがないからまだまだ研究だって言っとりました。たしかにそうだと思いますね、編み方なんかでも何百種類とありますが自分で考えたら無限やでねぇ。竹の編み方ちゅうのは、私がこれはすばらしいと思って一生懸命自分で編み方考えて作っても本なんか見ると明治時代のころに編まれておったっていうものがあるでねぇ。先人の知恵というのはすばらしいものですねぇ。

8. 凧は最高の教育材料

私が一番勧めるのは凧作り、凧揚げ。作ることは技術、凧に絵を書くことは美術、それから何で揚がるということは理科の科学、一生懸命走って揚げる事は運動であり、スポーツ、それと仲間と一緒にコミュニケーションをとって遊ぶという最高の教育材料やないかと勧めとる。やけど、今はなかなか凧を揚げれる条件のいい所がない。けど、凧揚げちゅうのは最高の遊びで、最高の教育材料やと思う。

9. 凧揚げ大会優勝

私はそんなに大きい凧は作らんけども、色々な創作凧をつくる。竹ひごを自由に曲げて色々な物を作って揚げることが趣味で、今から26年くらい前に長良で凧揚げ大会があった時に、私が作って持ってた凧が優勝した。凧揚げ大会の条件として綺麗で独創性があってよく揚がるというのが条件やった。私は岐阜の長良なら鵜飼やと思って、鵜を竹で作ってその下に鵜籠を作って鵜籠の上に鵜が羽ばたいているというものを作って凧にして揚げたらよう揚がった。けどその時はすごい大きな飛行機凧とか50mぐらいの連凧とか風車をいっぱい付けた創作凧があって、とても私の凧では太刀打ちできんと思ったら私が優勝したもんでびっくりやった。竹はどんな風でもいい。自分の創意、工夫で自分の思いどおり形に作って、自分の思いどおり絵を書く。その自分で作ったものが空高く舞い揚がるなんていうのはこれは最高の夢やね。これは本当にとりつかれる。

10. 心の移り変わり

始めはね竹細工は半分嫌々やっておったようなもんやね。私は長男やでこれしかやることがなかったもんでやっておったけど、ただこれで生活していかないかんで大変やったわね。朝早くから夜遅うまで毎日毎日。それでもっと他の仕事にかわろうかわろうと思っとりました。でも、20年、30年たったら竹が本当に好きになってね、自分でいろいろ編み方を工夫したり何かを作ることは最高におもしろいです。でも、昭和50年頃なかなか生活が苦しくて収入があんまりないもんで、だから半分、市のほうに勤めながら休みのときに竹細工を作っていました。もう今は定年退職したもんで楽しみながらやっていきたいです。

名人　石原文雄（いしはらふみお）さんのプロフィール
- 生年月日：昭和10年6月22日生まれ
- 出身地：岐阜県関市相生町
- 職業：鵜籠づくり

中学校卒業後父と同じ竹細工職人になった。鵜籠以外にも農産物を入れる籠や花生けの籠など竹で作れる物ならなんでも作っています。経験年数は54年。今は岐阜県博物館、子供会などにおいて竹細工の講師などもおこなっている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
㈳岐阜県緑化推進委員会　佐藤正吉】